

平成29年度 法人事業報告書

(平成29年4月1日～平成30年3月31日)



【社会福祉法人 長尾福祉会 法人理念】

障害をもっていても もっていなくても 男も女も

「生まれておめでとう・成長しておめでとう・長生きしておめでとう」

といえる社会づくりを目ざします

第 1 章 法人全体事業総括

【概況】

平成 29 年度は高松くりの木保育園の整備事業をはじめ国が推し進める「地域共生社会」の実現に向けて、法人内種別間および地域の福祉関係者との連携強化を推進してきた。平成 27 年度から事業化したおもいやりネットワーク事業への参画も 3 年目を迎え、地域社会福祉協議会や民生委員との情報共有も少しずつではあるが図られるようになった。

事業においては、高松くりの木保育園の整備が完了し、全年齢全種別対応の法人としての位置づけとなったが、事業種別だけではなく種別横断の切れ目のない種別間連携こそが当法人の目指す姿と再確認しながら職員一丸となって取り組む必要がある。

昨年度の課題であった事業収支においては各事業が意識的に取り組んだこと、処遇改善率の上昇、給与規程の改正などの要因で回復することができた。

【平成 29 年度 長尾福祉会 基本目標】

- ・ 地域に根差した福祉サービスの充実と新たな福祉課題に対応するサービスの創造
花園地域への保育相談拠点の整備とさぬき市長尾の認定こども園の設置認可を行うとともに地域福祉の拠点となるよう、地元自治体やコミュニティーセンターとの情報交換を積極的に行った。

【平成 29 年度 長尾福祉会 重点事業】

- ・ 自法人のサービス評価と面的サービスの実現を向けての調査研究
各事業所で利用者アンケートを実施し、サービス内容の評価を行うとともに、改善を行った。
- ・ 健全な法人経営と情報公開
大幅な経費の見直し、諸加算の取得など事業収益の拡大を図った。情報公開は法に規定されているものの他、日常の活動状況をホームページ委員会を通じて月 2 回更新できた。
- ・ 次代を担う人材の積極的採用と育成
新たな職員募集媒体の活用と今年度はテレビ CM を流し長尾福祉会の認知と採用につ

ながら取り組みをした。

- ・ 中長期事業計画の策定と法人理念の共有と発信
長尾福社会ビジョン2035の骨子を作成し、来年度の策定を目指す。
- ・ 働きやすい職場環境の醸成とキャリアパス規程はじめその他諸規程の整備
社会保険労務士及び労働基準監督署の助言を得ながら、新たな就業規則、給与規程、労使協定関係を評価し改正した。

第2章 法人本部事業報告

法人事業の運営管理

法人本部では、内部監査や制度対応のための体制を整え、内部書類や業務分掌の流れを統一化することに着手した。

理事会・評議員会の運営

理事会の開催

【第1回】

平成29年6月1日（金） ゆたか荘 相談室

議案第1号 平成28年度事業報告の承認について

議案第2号 平成28年度収支決算の承認について

議案第3号 新役員候補者推薦の提案

議案第4号 社会福祉法人長尾福社会役員等報酬規程の改正について

議案第5号 社会福祉法人長尾福社会就業規則の改正について

議案第6号 社会福祉法人長尾福社会給与規程の改正について

議案第7号 社会福祉法人長尾福社会旅費規程の改正について

議案第8号 高松くりの木保育園（仮称）の名称について

【第2回】

平成29年6月19日（月） ゆたか荘 相談室

議案第1号 理事長の選任

議案第2号 さぬき市こども園計画に伴う土地の取得について

【第3回】

平成29年8月18日（理事会の決議があったものとみなされた日）

社会福祉法第45条の14第9項の準用による一般社団法人及び一般社団法人に関する法律第96条及び定款第26条第2項の規定に基づく決議

議案第1号 認定こども園長尾学舎（仮称）建設に伴う土地開発工事の随意契約について

【第4回】

平成29年11月22日（月）ハーティヴィラ亀鶴（旧）相談室

議案第1号 高松くりの木保育園の事業進捗状況について

議案第2号 高松くりの木保育園資金計画および担保提供について

議案第3号 幼保連携型認定こども園「長尾認定こども園（仮称）」の事業採択ならびに事業実施について

議案第4号 幼保連携型認定こども園「長尾認定こども園（仮称）」の設計監理者入札について

議案第5号 幼保連携型認定こども園「長尾認定こども園（仮称）」用地の遺跡調査について

報告事項 理事長報告

【第5回】

平成30年2月20日（火）高松くりの木保育園 くりの木サロン

議案第1号 長尾認定こども園（仮称）建設工事における指名競争入札予定業者および入札予定金額について

【第6回】

平成30年3月6日（火）ハーティヴィラ亀鶴（旧）相談室

議案第1号 社会福祉法人長尾福祉会の定款の変更に伴う理事会による評議員会の招集事項の決議について

報告事項 長尾認定こども園（仮）の入札の結果について

【第7回】

平成30年3月26日（月）ハーティヴィラ亀鶴 相談室

議案第1号 長尾認定こども園（仮称）建設工事入札結果について

議案第2号 平成29年度収支補正予算（第1号）について

議案第3号 平成30年度事業計画（案）について

議案第4号 平成30年度収支予算（案）について

議案第5号 のぞみ園及びゆたか荘の空調設備工事の随意契約について

議案第6号 経理規程の一部改正について

評議員会の開催

【第1回】

平成29年6月19日（月）ハーティヴィラ亀鶴（旧）相談室

- 議案第1号 平成28年度事業報告について
- 議案第2号 平成28年度収支決算の承認について
- 議案第3号 新役員の選任について
- 議案第4号 社会福祉法人長尾福社会役員等報酬規程の改正について

【第2回】

平成29年11月22日（月）ハーティヴィラ亀鶴（旧）相談室

- 議案第1号 高松くりの木保育園の事業進捗状況について
- 議案第2号 高松くりの木保育園資金計画および担保提供について
- 議案第3号 幼保連携型認定こども園「長尾認定こども園（仮称）」の事業採択ならびに事業実施について
- 議案第4号 幼保連携型認定こども園「長尾認定こども園（仮称）」の設計監理者入札について
- 議案第5号 幼保連携型認定こども園「長尾認定こども園（仮称）」用地の遺跡調査について

【第3回】

平成30年3月15日（木）場所 ハーティヴィラ亀鶴 相談室

- 議案第1号 社会福祉法人長尾福社会の定款の変更について
- 報告事項 長尾認定こども園（仮）の入札の結果について

施設整備・補修事業

- ・ 高松くりの木保育園の開設準備
高松くりの木保育園建物 平成29年12月20日竣工
- ・ さぬき市認定こども園土地取得
平成29年7月12日さぬき市長尾西字荒井1601番1他5筆
土地面積4,607㎡
購入価格28,700,000円
- ・ さぬき市認定こども園造成工事請負契約
契約日 平成29年9月1日
契約者 株式会社寺村建設興業 代表取締役 寺村好記
契約金額 9,936,000
- ・ さぬき市認定こども園設計監理業務契約

契約日 平成29年12月1日

契約者 有限会社藤岡総合設計 取締役 藤岡旭

契約価格 18,360,000円

- ・ さぬき市認定こども園建設工事請負契約

契約日 平成30年2月20日

契約者 株式会社合田工務店 代表取締役 合田紘一

契約価格 359,640,000円

- ・ 特別養護老人ホームゆたか荘省エネルギー事業

契約日 平成30年3月28日

契約者 ダイキンエアテクノ株式会社

契約金額 42,120,000円

- ・ 障害者支援施設のぞみ園省エネルギー事業

契約日 平成30年3月28日

契約者 ダイキンエアテクノ株式会社

契約金額 31,104,000円

その他事業

- ・ さぬき市高齢福祉事業検討委員会の運営
高齢各施設の代表者が参加した。
- ・ 諸制度改革への対応
法制度に精通した法人事務職員を増員し、制度改革への対応を行った。
- ・ 人事労務管理の体制整備
平成29年6月に給与規程の改正、就業規則の改正を行った。

法人運営事業

平成29年度は次の事業を行った。

(1) 第一種社会福祉事業

- ・ 障害者支援施設の経営
- ・ 特別養護老人ホームの経営

(2) 第二種社会福祉事業

- ・ 障害福祉サービス事業の経営
- ・ 障害児通所支援事業の経営
- ・ 一般相談支援事業の経営
- ・ 特定相談支援事業の経営
- ・ 障害児相談支援事業の経営
- ・ 老人短期入所事業の経営

- ・ 老人デイサービス事業の経営
- ・ 老人居宅介護等事業の経営
- ・ 生計困難者に対する相談支援事業

(3) 公益事業

- ・ 居宅介護支援事業
- ・ サービス付き高齢者向け住宅事業

第3章 障がい関係事業報告

障害者支援施設のぞみ園事業報告

【概況】

平成29年度は、利用者の意思及び人格の尊重、利用の立場に立った障害福祉サービスの提供、就労支援への取り組みの推進、障害児支援の強化、相談支援事業の拡充を目標に、高齢利用者への対応の検討、グループホーム運営の充実、障害児通所支援事業の充実、発達障害相談支援事業の実施、リスクマネジメントの徹底、安心安全な生活環境作りと整備を課題として取り組んできた。

平成30年は障害者総合支援法の一部改正および報酬改定が実施されることになっている。今回の改定内容を見る限り園の経営に大きな影響はない様子であるが今後の動向にも目を向け、安定した経営が継続できるよう努力していきたい。

施設入所支援、日中活動としての生活介護事業、就労継続支援B型事業、生活支援センターのぞみにおける相談事業やグループホーム、のぞみ児童デイサービス事業所等それぞれにおいて利用者のニーズに沿った支援活動を行ってきた。

毎月の企画調整会議、寮会議において職員間の連絡調整を図り、職員会議や職員研修会等で職員の資質向上の研修にも積極的に取り組んで来た。また昨年度から入所相談委員会を定期的実施し入所待機者などを検討する機会を作っている。

施設入所支援

- ・ 個別支援計画を中心に本人、保護者の意向の把握に努めそれを反映した支援及び日課を設定、実施していくよう努めた。また個別のニーズに可能な範囲で対応する個別日課を設定し、定期的に見直しも行った。
- ・ 遠足は大型の観光バスを利用し県外に行き楽しい時間となった。
- ・ 環境美化は週1回全体で取り組む時間を作った。
- ・ 休日は楽しく充実した時間が過ごせるよう余暇支援を強化した。

- ・ 食堂の椅子をすべて新しく購入した。
- ・ 家庭と連携し連絡帳などを通じて情報共有しながら支援にあたった。
- ・ 重度の利用者に対し、絵や写真などを通じコミュニケーション支援やスケジュールを実施した。
- ・ 月1回安全委員会を開催し、事故、ヒヤリハット報告書の分析、再発防止対策について協議した。今年度は骨折が1件など大きな事故もあったため再発防止の協議に時間を割いた。

女子寮（定員15名）

年齢層が幅広く、また高齢化及び重度化に伴い身体機能の衰え、高齢や行動障害のために環境調整やマンツーマンでの対応が必要なケースが増えてきた。また生活のリズムが崩れ、夜間帯の支援が必要なケースも見られている。

これまでの支援内容や個別な日課活動の具体的な内容、全体で動く食事や入浴での移動、掌握の体制を見直した。本人の身体的な状況を考慮し身体障害者施設へ1名が移行した。またそれに伴ってグループホームのぞみより1名が入所した。寮全体では利用者や保護者の要望を反映した日中活動や余暇の内容、レクリエーション、外出などを取り入れ、楽しみを感じながら豊かな生活につなげられるような支援を目標に実施した。

男子寮（定員15名）

生活面における基本的な支援だけでなくコミュニケーションの充実を図り、利用者がどのようなニーズを持っているかしっかりと把握できるよう努めており、今年度も月に一度寮での自治会も開催し自己選択、自己決定を促している。

男子寮では健康維持活動として歩行や体操、余暇活動として作品制作やカラオケ、スポーツ、DVD鑑賞、また清掃活動として食堂掃除や浴室清掃、洗車などを行っている。社会参加については利用者のニーズに合った外出ができるよう支援員とマンツーマンで外出している。また積極的に地域の行事やスポーツ大会などにも参加している。またニーズに合った活動を提供しようと努めていることや信頼関係の構築に努めていることもあり積極的に日中活動に参加できている。

南寮（定員20名）

高齢化、重度化に伴い、個別の対応が必要なケースや強度行動障害への支援が必要なケースが見られている。それぞれの特性に配慮した対応や環境の調整などにより比較的落ち着いて過ごせている。洗濯たたみ、歩行、余暇などの集団的な活動に加えて、個人日課や個別歩行、定期的な個別外出、全体外出等の集団と個別を混ぜながら日中活動を実施している。

個別日課は水が好きな利用者はコップ洗い、洗濯者が気になる利用者は洗濯物の仕分けなど、本人の興味あること、できること、好きなことを見つけながら取り組んできた。今後

もエンパワーメントとストレングスに視点をあてた個人日課の取り組みを実施していきたい。

| | | | | |
|------|-----------|-----|------|------|
| 短期入所 | のぞみ園 | 14名 | 126件 | 283日 |
| | のぞみホーム1号館 | 2名 | 54件 | 164日 |
| 日中一時 | のぞみ園 | 10名 | 249件 | 249日 |

日中活動・生活介護

平成29年度は、生活介護の定員が60名で、3つのグループに分け、生活介護Ⅰが10名、生活介護Ⅱが、20名、生活介護Ⅲが20名であった。

支援内容

本人、保護者の意向を確認しそれをもとに個別支援計画を作成し支援にあたった。

本人なりの自立、本人なりの楽しみが見つけれられることを目標に日課を設定したり余暇支援などを実施した。

サービス管理者や各部署との連携も図り、各支援マニュアルの一部見直しも行い、支援員全員でマニュアルの見直しも行った。また、個々のケースに応じた日課の内容を再検討し、状況に応じてグループ分けを実施に支援した。

年齢の幅や障害の程度差、常に個別な対応が必要なケースが増えていることで、生活の場や活動する空間として環境面での課題が大きくなっている。

就労継続支援B型事業(13名)

就労継続支援B型の利用者は13名である。ダンボール組立(富士ダンボール、パック三樹)、和三盆(ばいこう堂)、菓子工房(パン、クッキー、パウンドケーキ)、喫茶コーナー清掃、ゆたか荘清掃、デイサービスゆたかの清掃、デイサービスおしぼり洗濯、社協タオル洗濯、さぬき市委託作業(封筒入れ)などの仕事を中心に行っている。また今年度から新たに辛立文化センターの清掃も実施している。年間を通して園内行事に参加することで仕事を中心にしながらも生活感のある就労継続B型を目指して活動している。軽作業では全体的な需要、生産量が増加傾向にあり利用者の配置、や構成などの対応が必要になってきている。また清掃メンバーの高齢化が進んできており、近い将来の世代交代が課題となっている。

29年度入所・退所(30年3月末)

| | 女子寮 | 男子寮 | 南寮 | 通所 | 就労B |
|----|-----|-----|----|----|-----|
| 定員 | 15 | 15 | 20 | 10 | 15 |
| 入所 | 1 | 0 | 1 | 1 | 1 |
| 退所 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |

| | | | | | |
|------|----|----|----|----|----|
| 園内移行 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| 利用者数 | 15 | 15 | 20 | 10 | 13 |

グループホーム

グループホームのぞみ

女性利用者6名が共同で生活していたが29年度1名が入所に移行し5名となった。環境美化などの当番活動などを実施しながらそれぞれが自立し落ち着いた生活を送っている。今後も健康で安心できる生活を送っていくため相談その他の日常生活の支援を実施していく。

のぞみホーム1号館

現在男性6名が共同生活を送っている。入浴など生活面での支援が必要な利用者もいるが休日は買い物に出かけるなど地域で落ち着いて生活している。30年3月末で1名の空室があるが希望者、入所候補者がいるため30年度には定員が埋まる見通しである。

29年度グループホーム入所・退所

| | グループホームのぞみ | のぞみホーム1号館 |
|------|------------|-----------|
| 定員 | 6 | 7 |
| 入所 | 0 | 0 |
| 退所 | 1 | 0 |
| 利用者数 | 5 | 6 |

生活支援センターのぞみ

相談支援事業

地域で生活する障害者、児、その家族の様々な相談を受け対応し、福祉サービスの利用に繋げたり、他機関と連携して困り事を解決してきた。また、利用者の日々の困りごと等に対して支援してきた。虐待等の困難事例に対しては、関係機関と連携をとり対応している。障害のある方が地域で安定した生活が送れるように支援し一人ひとりに寄り添った支援が提供できることを目指すことを事業方針として取り組んだ。

[相談件数]

指定特定相談支援

計画作成件数 149件 モニタリング 63件

障害児相談支援

計画作成件数 80件 モニタリング 29件

指定一般相談支援 29年度対象者なし

上記以外のさぬき市・三木町からの委託で実施する基本相談支援

- ・障害児・者、その家族の様々な相談を受け対応をする。
- ・利用者の日々の困りごと等に対する支援
- ・大川圏域自立支援協議会、香川東部養護学校の進路説明会や地区懇談会、さぬき市発達障害支援連携協議会・児童対策地域協議会等に参加。

のぞみ児童デイサービス事業所

放課後等デイサービス事業

対象者・・・児童、生徒（6歳～18歳）

時間・・・放課後6時間を基本に土曜日(月2回)振休日・長期休業中は終日利用(9時から18時)を受け入れた。必要に応じて、前後1時間ずつの延長支援対応を行った。

送迎—香川東部養護学校・長尾小学校・志度小学校、津田小学校、さぬき南小学校の下校時刻に合わせて、当所からの迎えのみを(登所支援)を実施した。

児童発達支援事業

対象者・・・幼児（1歳から就学前）

時間・・・9時から18時の終日利用を受け入れている。必要に応じて前後1時間ずつの延長支援対応を行った。

さぬき市発達障害相談支援事業（ほっとすてっぷ）

対象・・・幼児・児童・生徒本人及び家族、または支援に携わる保育者、教員、支援者等
機関支援として学校や幼稚園、保育所訪問を実施している。

時間・・・9時から18時までの随時（事前予約）

事業実績

| | | | | |
|-------------|-----|-------|------|--------|
| 放課後デイサービス事業 | 35名 | 4139件 | 1日平均 | 15.50名 |
| 児童発達支援事業 | 8名 | 529件 | 1日平均 | 1.97名 |
| 計 | 43名 | 4688件 | 1日平均 | 17.48名 |

昨年の定員25名から両事業の多機能型20名定員へ定員変更をして今年度は運営をした。長期休業中や特定曜日には定員を超える利用があり、毎年実績は着実に増加しているものの目標達成は難しく、対策を検討しているところである。

その他事業

行事

花見、遠足、スポーツレクリエーション、テーブルマナー、クリスマス会等計13回を実施。

地域交流

しょうぶまつり、いきいき福祉まつり、ふれあいウォーク、ひなまつり茶会等計16回実施。

地域貢献

川上地区の清掃活動を月1回実施。さぬき市役所へ等週1回パン販売に行った。

医務

健康診断、歯科検診、定期健診、その他健康管理、衛生管理を実施した。

給食

栄養ケアマネジメント、3か月に1回の保健栄養会議などで利用者の健康維持などについて協議した。

環境美化

年2回親子共同作業、年1回ワックスがけなどの大掃除を実施した。週1回全体で環境美化に取り組んだ。

実習受入

高松大学、高松短期大学、四国福祉専門学校など計19名受け入れた。

職場研修

強度行動障害、利用者高齢化の対応、虐待などをテーマに計10回実施。

スポーツ大会

ソフトボール大会、障がい者スポーツ大会、卓球大会など計7回参加。

防災訓練

毎月1回実施。火災、土砂災害想定の実施、AED心肺蘇生講習などを実施した。

第4章 高齢関係事業報告

特別養護老人ホームゆたか荘事業報告

【概況】

3年毎の介護報酬改定を前に、介護人材の育成・確保等、安心・安全な介護を提供する為には不可欠な課題が多い状況の中、高齢者の尊厳保持と自立支援、医療との連携した看取りケア、専門職がチームとなって質の高いケアの提供ができるよう、施設内外の研修に参

加し職員のレベルアップを図った。また一人ひとりの尊厳を大切に、快適な生活がサポートできるような体制づくりと地域から信頼と支持を得られる施設づくりを推進することができた。

平成29年度 ゆたか荘取り組み目標に対する成果

目標Ⅰ 自立支援に向けた 専門性の高いチームケアの提供

社会福祉士・介護福祉士・介護支援専門員・看護師・准看護師・管理栄養士・歯科衛生士・認知症ケア専門士・認知症介護指導者等の専門知識を持った職員が在籍し、ご利用者に専門的なアプローチをチームで心がけた。全職員が12の委員会に分かれて積極的に活動し、委員会の中で知識や専門性を高めるとともに、各委員会が主催となって職員研修を行う等、介護技術や専門知識の向上に努める事ができた。全国老人福祉協議会、香川県老人福祉協議会、介護労働安定センター等主催の外部研修にも積極的に参加し、最新の介護情勢や他施設の取り組みも学ぶ事ができた。

目標Ⅱ ご利用者の視点に立った 生きがいや喜びが感じられる暮らしの提供

近隣の小学校・幼稚園・保育所と定期的に交流を行い、子どもと触れ合う機会を多く持てた。一緒に手遊び等、歌や遊戯を楽しむことで、穏やかな気持ちになり笑顔溢れる1日が過ごせたと思う。また、希望者にはバス遠足を計画し、29年度もリフト機能付きの観光バスを貸し切って淡路島まで出かける事ができた。ご利用者の重度化にて遠出が難しくなっていく中、ご家族のご協力に感謝しつつ、一緒に過ごせる貴重な時間が作れたのではないかと感じている。施設という空間の中でも、自己決定でき自由な時間と気分転換が確保できるよう、飲み物やケーキ類が選べる喫茶の開催、ショッピングで自分の買いたいものが選べる機会、そして桜、菖蒲、菊と季節の花を楽しめる外出行事と、心豊かな生活ができるよう、ご支援させていただいた。

目標Ⅲ ご利用者にとって安心・安全な介護を提供

ご利用者の身体状況や生活状況等については、多職種が協働で作成した「介護情報シート」を基に、介護支援専門員が包括的自立支援プログラムを使用してアセスメントを実施、多職種がチームとなって、その時の状態にあったベストなケアを安全に提供しよう心がけた。毎月、安全対策委員会を開催し、月内に発生した事故報告やヒヤリハットの分析を行い、安心・安全な暮らしができるように再発防止策を検討、対策後の対応に問題ないかモニタリングを行った。福祉用具や介護用品も安全と快適面に配慮した製品を採用する等、生活の中でのリスク管理も気を付けた。災害マニュアルを整備し、行政や消防の協力のもと、年6回のテーマ別に自主防災訓練を実施、備蓄品の点検、確認を行い災害時にすぐ動けるような体制を整えた。

目標Ⅳ ご利用者の尊厳と想いを大切にされた個別ケア

4人部屋という環境でも、気持ち良く過ごしていただけるよう、プライバシーを守ることに配慮した。いつまでも地域・社会との繋がりが感じられるように、選挙等があれば全員に参加・不参加を聞き取り、選挙管理委員会の規則に沿って不在者投票所を開設して対応した。「選挙に参加」する事で、社会の一員としての任務を果たすことができた。また、墓参り・結婚式・法事等の家族のつながりが継続できるような家族行事にも参加できるようにご支援させて頂いた。

人生の終焉まで安心して過ごして頂く場として、介護支援専門員が中心に、嘱託医・介護・看護・管理栄養士・歯科衛生士がチームとなり、「尊厳ある看取り」ができるよう、心を込めて行った。ご家族には「看取り後のアンケート」をご記入いただき、素直な感想や改善が望まれる部分があればご意見いただき、次の看取りケアに活かせるようにした。

目標Ⅴ 優秀な福祉人材の確保と育成

幅広く優秀な人材が確保できるよう、長尾福祉会の全体像を知って頂けるようなテレビコマーシャルを放送、新卒者以外にも経験豊富な介護人材の採用にも力を入れた。定期的開催されている就職フェアにも参加し、中堅職員が働き易さや施設の特色等を伝える事ができた。また、スキルアップの為に資格取得を支援し、新たな資格を取った職員には資格の種類に応じて資格手当を支給した。

目標Ⅵ 福祉の啓発と地域貢献活動

地域と施設がお互いに助け合い、地域の一員として施設を活用して頂けるような取り組みを継続している。長尾小学校3年団に、車椅子体験で子ども達が福祉に興味を持てるような体験型の福祉啓発活動を実施等、地域で暮らす認知症の方への理解とサポートができるよう、地域包括支援センターと連携し「認知症サポーター」の養成講座を6年生に開講した。地域の美化活動やサロン会活動の支援、朝の「あいさつ運動」等、地域の子どもや元気な高齢者と交流する機会を持つことで、地域の福祉ニーズの把握に努めた。「おもいやりネットワーク」事業の活動として、社会福祉協議会と協力し、引きこもりの方の就労トレーニングとして職員と一緒に施設の窓拭きや洗車方法を指導、カウンセリング的な機能も果たした。地域を良くする活動として、さぬき市高齢者虐待防止ネットワークや長尾地区地域福祉活動計画の策定にも参加、他にも長尾小学校の評議委員として学校関係にも参加・協力する事で、地域福祉ニーズの把握に努めるとともに、福祉の向上と安心して暮らせる社会づくりに協力できた。

目標Ⅶ 効率的運営と安定的経営

水光熱費が高騰している中、ご利用者の生活に支障がない部分の節電や日用品の価格

調査にて、購入業者の選定を行った。ご利用者の高齢化・重度化により、長期的な入院治療を必要とされる方が増えており、長期入所者の空床をショートステイで活用する等、効率的な運営を心がけた。

また、人件費や消費税の上昇も予定されており、介護保険外のサービスについては別途費用の請求も止む負えない状況があり、次年度の課題としたい。

有資格者の状況及び資格取得支援（平成30年3月現在）

| 資格名 | 人数（重複有） | 今年度取得者 |
|-----------------|---------|--------|
| 社会福祉士 | 2 | |
| 施設福祉士 | 1 | |
| 介護福祉士 | 22 | 2 |
| 管理栄養士 | 1 | |
| 介護支援専門員 | 4 | |
| 看護師 | 6 | |
| 保健師 | 1 | |
| 准看護師 | 2 | |
| 保育士・幼稚園教諭 | 1 | |
| 歯科衛生士 | 1 | |
| ヘルパー2級 | 3 | |
| 初任者研修修了 | 2 | 1 |
| 実務者研修修了 | 5 | 3 |
| 認知症実践者研修 | 5 | |
| 認知症実践者リーダー研修 | 3 | 1 |
| 認知症ケア専門士 | 1 | |
| 認知症介護指導者 | 1 | |
| 防火・防災管理者 | 1 | |
| 防災士 | 1 | 1 |
| 喀痰吸引（14時間・50時間） | 5 | |
| 1種衛生管理者 | 1 | |

今後も質の高いケアを目指し、職員全体が自己研磨に励むとともに、スキルアップに向けての資格取得支援を続けていきたい。

施設サービス及び各種委員会活動

<施設サービス部門>

【生活相談業務】

長期・短期入所者の利用相談にあたっては、随時各担当のケアマネージャーと連携を図りつつ、介護者の負担軽減、ご利用者にとって必要なサービスに繋がるよう努めてきた。施設への相談としては、入所相談等の利用相談が多く、中でも、将来的に不安があるなど、介護認定の軽度の方の相談・申込が増えてきている。課題としては、長期へのスムーズな案内及び短期利用率の安定化を図るとなっているが、待機者の事情により、申し込みはあっても、入所案内時に速やかな入所につながらないケースもあった。そのため、待機者に対し定期・随時で近況の確認を行うことで、状況の把握と速やかに利用できる体制を今後整えていきたい。

また、現在利用中の入所者への相談業務として、多職種とも連携を図り、その方の生活で困り事が少なくなるよう適宜連絡調整を行っている。短期入所利用については、担当ケアマネージャーなど外部の関係機関と良好な関係づくりを行うことで、利用者の確保及びご家族の介護負担軽減に努めることができた。しかし、心身状態の重度化が進み、中でも認知症状の重い方の利用希望が増えてきており、ケアに時間と人を要する方の利用ニーズが高くなっている。

今後の課題としては、心身状況の重篤化が進んでいるご利用者の受け入れ態勢を整えると共に、各部署・各関係機関との連携を図り、利用率の確保とご利用者・ご家族とのより良い関係を築いていきたい。

【給食】

栄養管理では、毎日の食事量・食事状況・体重の増減や身体状況を把握し、食事内容や形態

など多職種で検討・連携することにより、ご利用者一人ひとりに合わせた栄養管理を実施することができた。また、カンファレンスに参加することにより、ご利用者・ご家族の意向をしっかりと伺い、よりご利用者のニーズに応えていきたい。

季節ごとの行事を計画し、食事からも季節感を感じて頂けるメニューを取り入れ、「美味しい」「また食べたい」等の声をいただくことが出来た。今後も、安全で「美味しい」と言ってもらえるような食事を提供していきたい。

【医務】

「全てのご利用者が健康に生活していただけますよう、ご利用者やご家族の意向に沿って心のこもった適切な医療・機能訓練の提供を行う」を目標にケアにあたってきた。嘱託医の指示を仰ぎながら、疾病の早期発見・体調管理に努めると共に、治療方針については、日々変わる体調の変化に注意しながら、その都度ご家族に説明した。多職種が集まってカンファレンスを開催することで、取り組みの方向性を明確にし、

ご利用者の意向に沿った医療の提供を実施することができた。しかしながら、施設ご利用者も以前にも増して、高齢化・重篤化が進み、今後も益々医療依存度の高い方の利用や介護度の重度化が進んでいくことが想定される。今後も、そのご利用者の健康管理はもとより、ご利用者にとって「より良い人生であった」と思っていただけのような、尊厳を大切にされた看取りケアについても、心を込めて実施していきたい。

<ご利用者の健康管理>

血圧測定・体重測定（毎月）、検尿、結核健診（該当者）、血液検査（年1回と必要時）

嘱託医の回診（週2回と必要時）、看護師による健康観察（毎日）、内服薬の管理

<介護職員腰痛検診>

年2回、嘱託医にて

<職員健康診断>

年1回（夜勤職員については、年2回）

<医務実績報告>

| | 受診回数 | 入院者人数 | 退所者数(死亡) | 施設(看取り) | 注入人数 | 喀痰吸引者 |
|-----|------------|-------|----------|---------|------|-------|
| 4月 | 50 | 1 | 1 | 1 | 5 | 0 |
| 5月 | 42 | 6 | 1 | 0 | 6 | 0 |
| 6月 | 31 | 4 | 1 | 1 | 8 | 0 |
| 7月 | 42 | 0 | 2 | 2 | 8 | 0 |
| 8月 | 43 | 1 | 0 | 0 | 9 | 0 |
| 9月 | 38 | 3 | 1 | 1 | 9 | 0 |
| 10月 | 38 | 3 | 0 | 0 | 9 | 0 |
| 11月 | 41 | 1 | 2 | 2 | 9 | 0 |
| 12月 | 32 | 2 | 0 | 0 | 8 | 0 |
| 1月 | 35 | 6 | 0 | 0 | 8 | 0 |
| 2月 | 20 | 0 | 1 | 1 | 10 | 0 |
| 3月 | 36 往診6含 | 6 | 3 | 1 | 8 | 0 |
| 総数 | 448 | 33 | 12 | 9 | 97 | 0 |

<再入院>：同一疾患にて入院延件数

6件

<最多入院歴>

誤嚥性肺炎

<その他>

医療廃棄物の管理、医薬品、医療機器の管理

【サービスステーション】

個々のご利用者に関する理解を深めるため、サービスステーション会議・フロア会議にて毎月カンファレンスを実施した。各部署との連携を図りながらご利用者の生活の質の維持・向上に努めることができた。個々の技術や知識の向上には繋がっているが、今後継続していくためにはどうすべきか考えていく必要がある。継続した尊厳ある生活をサポートするために、新採用職員の育成＝OJTの標準化や、それに携わる指導職員のレベルアップに努めていく必要がある。

目標に対する評価として

- ① 介護情報共有シートの簡素化を実施し、専門職との話し合いの場を設けることにより、情報共有がスムーズに実施できるようになった。必要な内容を凝縮することで、新採用職員にも理解しやすいものとなった。
- ② 介護技術研修等を職員会議の場で実施することにより、参加職員の増加に繋がり、また研修後のアンケートを行うことにより、次回の研修内容に活かすことが出来ている。

【行事】

- 4月 お花見
 - 5月 こいのぼりを楽しむ会（地域交流）
 - 6月 菖蒲観賞会（長尾亀鶴公園）
 - 7月 七夕まつり、行基ハイツ夕涼み会（地域行事参加）
 - 8月 納涼夏祭り
 - 9月 敬老会
 - 10月 菊花展見学（大川町みろく）、ながおいきいき福祉祭り（地域行事参加）
 - 11月 長尾地区文化祭（地域行事参加）バス遠足（倉敷アイビースクエア）
 - 12月 忘年会、地域交流餅つき大会（地域交流）
 - 1月 新年祝賀、初詣
 - 2月 節分豆まき
 - 3月 開荘記念行事、ひな祭り会、のぞみ園ひな祭り茶会
- その他 喫茶（3回/月）、ショッピング・外食ドライブ（4月～10月）

会議の開催

- [サービスステーション会議] 1回/毎月
- [グループ会議] 1回/毎月

【介護支援専門員】

介護保険の更新期間に合わせて、原則6ヶ月毎にケアプランを見直し、多職種で集まってケアカンファレンスを実施した。また、ご利用者の状態変化に伴うケア変更時や看

取り移行期には臨時のケアカンファレンスを開催、プランの変更をわかりやすい言葉でご家族に説明、同意を得てプランを実行した。ご利用者・ご家族、各部署から情報を、アセスメント・モニタリングに活かし、一人ひとりのご利用者の想いに沿ったケアプランの作成に努めることができた。

ケアカンファレンスは、ご利用者、各部署職員だけではなく、ご家族にも出席を依頼し、日程調整しながら多職種参加のケアカンファレンスが開催できた。仕事等で参加できないご家族には、電話で意向を確認し、来荘時にプランの説明と同意をいただいている。

【ケアカンファレンス、ケアの変更・看取り件数】平成29年度87回開催

| 月 | ケアカンファレンス | ケアの変更・看取り |
|----|-----------|-----------|
| 4 | 9 | 1 |
| 5 | 6 | 1 |
| 6 | 6 | 1 |
| 7 | 6 | 3 |
| 8 | 9 | 1 |
| 9 | 7 | 1 |
| 10 | 10 | 0 |
| 11 | 8 | 0 |
| 12 | 6 | 1 |
| 1 | 6 | 1 |
| 2 | 7 | 0 |
| 3 | 7 | 0 |
| 合計 | 87 | 10 |

【認定調査】

- ・高松市からの委託 16件／年
- ・さぬき市からの委託 22件／年

【地域施設連携担当】

これまでの地域貢献活動（あいさつ運動やクリーン活動など）の継続と地域福祉活動計画策定委員のほか、長尾地域いきいきネットに参画し、地域のニーズ把握や地域活性化に各種団体と連携を図りながら地域に貢献することができた。

交流については、各種団体の皆様のご協力のもと、多くの方々に訪問・ボランティアにご参加していただくことができた。ご利用者に最も喜ばれている子供たちとの交流に関しては、長尾聖母幼稚園・長尾保育所、長尾幼稚園・長尾小学校が定期的に訪問してくれている。子ども達との交流を通し、今後不足していく福祉人材の確保・育成にも一役担うものとして

期待していきたい。年度で担任の先生が変わると方針や対応が変わることもあるが、連絡・連携を図ることにより今後も継続的に交流を図っていきたい。

| | |
|---------------|--------------------------|
| 保育所・幼稚園との交流 | 7回／年 |
| 地域団体との交流 | 15回／年 |
| 小学校との交流 | 1回／年（1学年3クラス×3回ずつの交流） |
| 地区水路清掃（川上自治会） | 1回／年 |
| あいさつ運動 | 7回／年（土・日曜日、祝祭日除く毎月8日に実施） |
| 地元地域クリーン活動 | 12回／年 |
| 地域祭事 | 2回／年（行基ハイツ夏祭り・いきいき福祉祭り） |

福祉人材の育成については、介護福祉士及び実務者研修養成校等からの実習生の受入を積極的に行った。長尾中学校より福祉に関心のある学生が5名職場体験学習に来てくれ、高齢者の理解や施設の必要性を肌で感じていただけたと思う。実習生の受入については、指導者となる職員の自己啓発にもつながるため、今後も継続した受入を実施していく。

| | |
|------------|-------------|
| 穴吹学園歯科衛生学科 | 延 4名（延40日間） |
| 介護福祉士養成実習 | 延 3名（延45日間） |
| 高校生総合的学習 | 延35名 |
| 徳島文理大学薬学部 | 延 2名（延 2日間） |
| 職場体験学習 | 延 5名（延10日間） |
| 実務者研修 | 延 4名（延20日間） |

今後については、活動の内容をより充実していくとともに、当法人理念にもある「社会づくり」を実現するためにも、近隣自治会や社会福祉協議会等との連携・交流を深め、福祉に関する啓発活動に力を入れていきたい。そして、社会福祉法人がもつ知識や技術を福祉啓発活動の一環として地域に還元し、地域・施設を利用される全ての皆様の人生が、より良いものになるよう携わっていきたい。

【機能訓練】

ご利用者の身体状況を把握し、機能訓練に対するご本人の意向を確認したうえで、理学療法士（PT）や多職種との連携を積極的に図り、専門的な視点からみた訓練プログラムを作成し実施した。また、カンファレンスにも積極的に参加することで、ご家族に対し機能訓練の実施状況、課題等を説明させていただいた。

パワーリハビリではなく、主には、日常生活の中での機能訓練（リハビリ）を計画・実施し、ご利用者の残存機能・潜在機能の活用を行い、本人に状態に合った自立支援を実施した。訓練に関しては、ご利用者・ご家族からの要望や機能訓練に意欲的なご利用者も多く、引き続き、多職種との連携を図りながら、ご利用者の自立した生活に繋がるリハビリを実施していきたい。

【歯科衛生士】

協力歯科医院による検診及び治療や指導アドバイス、併せてご家族の理解・協力によりご利用者の口腔衛生管理やケアを行うことができた。また、施設外研修に参加することで、改めて口腔ケアの大切さを認識し、その内容を、毎月の口腔ケア研修の中で多職種間で共有し、意見を交換することで、日々のケアに活かすことができている。

今後も、多職種で連携・協力しあい、ご利用者の口腔内外のケアに努めていきたい。

家族との連絡、協力体制の強化

[家族会の開催]

○第1回家族会（平成29年6月25日）

・平成29年度事業計画・昼食交流会

○第2回家族会（平成29年9月24日）

・講演 認知症サポーター養成講座、「認知症を学び、地域で支えよう」～みんなで支えるまちづくりを目指して～ 副施設長 新開 正義

○第3回家族会（平成30年2月25日）

・「平成30年度事業計画及び各部署・各委員会の取り組み進捗状況報告について」

・平成29年度ご家族アンケートの依頼

・「ゆたか荘での暮らし」～1年の軌跡～

[アンケート等]

○ご家族アンケート年1回実施

○ご利用者アンケート年1回実施

デイサービスセンターゆたか事業報告

【概況】

平成29年度利用者数において、前年と比較してゆるやかな上方修正となった。新たに介護保険サービスを利用し始める方もおり、在宅サービスから施設サービスへの移行者との入れ替わりとなり、登録数はほぼ横ばいであったが、一人あたりの週の利用数は2～3回が主として参加する傾向が強くみられていた。

利用対象者への対応は、年々ニーズの多様化が求められており、認知症者・要介護認定の中重度者に対して在宅生活継続に向けた取り組みや自宅内を想定した機能訓練の実践などより内容が求められるようになってきた。

これからの通所サービスのあり方としていかにして在宅生活が続けていけるか、個々の状況を鑑みながらのプログラム作成が重要となってきていることを実感した。

要介護度別利用者数・平均利用者数・稼働率（人）

| 平成 29 年度 | | 4 月 | 5 月 | 6 月 | 7 月 | 8 月 | 9 月 | 10 月 | 11 月 | 12 月 | 1 月 | 2 月 | 3 月 |
|-----------------------|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 実 人 数 | 要支援 | 31 | 30 | 29 | 29 | 28 | 31 | 29 | 30 | 29 | 29 | 29 | 29 |
| | 要介護 | 94 | 90 | 88 | 87 | 88 | 87 | 90 | 93 | 91 | 89 | 92 | 94 |
| 延べ人数 | | 1,103 | 1,196 | 1,153 | 1,166 | 1,202 | 1,176 | 1,211 | 1,217 | 1,140 | 1,075 | 1,120 | 1,296 |
| 平均利用者数 (月～金) | | 45.5 | 45.1 | 45.3 | 46.5 | 45 | 45.7 | 46.7 | 47.4 | 46.1 | 45.6 | 47.2 | 49.5 |
| 稼働率 (%) | | 82.8 | 82.1 | 82.3 | 84.5 | 81.9 | 83.1 | 84.9 | 86.1 | 83.9 | 83 | 85.8 | 90 |
| 平均利用者数 定員 45 名 (土) | | 34.4 | 35 | 34.2 | 34.4 | 36.2 | 39.8 | 40.5 | 40.5 | 37.5 | 37 | 41 | 37.8 |
| 稼働率 (%) | | 76.4 | 77.7 | 76.1 | 76.4 | 80.5 | 88.4 | 90 | 90 | 83.3 | 82.2 | 91.1 | 84 |

年間通して大きな増減少なく横ばい状態が続いていた。例年、秋から冬にかけて体調変化等による欠席、入院にて稼働率低下がみられていたが、その波は少なかったものの、年末から 2 月にかけて、積雪の影響が利用率の伸び悩みの原因となった。

介護予防教室事業（さぬき市委託事業）

29 年度さぬき市より事業受託として始めた介護予防教室であったが、地域への認知度不足にて定員 15 名上限には年間通して届かなかった。取り組みとしては身体面、精神面予防への意識が高い方への運動促進等を実施し、地域への浸透の足がかりとはなったが、登録者増加が今後の課題である。

・年間延べ人数（一日コース）793 名（半日コース）46 名

会議状況（開催月日）

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|---|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 日 | 24 | 29 | 26 | 31 | 28 | 25 | 30 | 27 | 28 | 29 | 26 | 28 |

新規・追加利用者の情報共有や同性介護の視点からサービスの評価、見直しを検討をする。又、レクリエーションの月間予定の検討を行うとともに、利用者個別の案件の評価・見直し等を定期的に行なうことで現状に合った対応を心がけていった。

情報機能

- ・ デイサービス便りの発行 : 毎月末発行
- ・ ホームページ更新 : 3ヶ月ごとに更新

地域交流事業（外部団体・個人）

- ・ 4月：豊考舞会・笑いヨガ
- ・ 5月：ボラえもん・警察委託犬訪問・歌のボランティア
- ・ 6月：フラワーアレンジメント教室・ドジョウすくい
- ・ 8月：笑いヨガ・手話コーラス
- ・ 9月：琉球太鼓・フラワーアレンジメント教室
- ・ 10月：笑いヨガ・ボラえもん
- ・ 11月：笑いヨガ・手話コーラス・歌のボランティア
- ・ 1月：フラワーアレンジメント教室
- ・ 3月：歌のボランティア

その他

- ・ 11月28日 実地指導（香川県長寿社会対策課）
- ・ 是正又は改善事項「運動器機能向上計画における目標設定において長期目標 3ヶ月期目標 1ヶ月程度の達成可能な項目にしていくこと」

ハーティヴィラ亀鶴事業報告

【概況】

複合施設という在宅と施設の間施設として、希望をすれば切れ目のないサービスを通して安心して在宅で生活ができるよう、各事業が連携して一人ひとりの自己決定を重視し支援する。

また今年度から香川おもいやりネットワーク事業にも参画し、地域の生活困窮者に対して、施設の機能を生かした相談支援を行う。

施設内共通事業

- ① 事業所連携会議の運営
- ② 香川おもいやりネットワーク（生活困窮者に対する相談支援事業）への参画
 - ・ 運営委員会への委員派遣（毎月1回の年間12回派遣）
 - ・ 実務者の養成 実務担当者会議（10月、1月派遣）
 - ・ 地域ネットワーク会議への派遣（11月2名派遣）
 - ・ 相談派遣、フードバンク、一時金支出、中間的就労、買い物援助、食事サービス等の

援助（29年度は事業実施がなかった）

ハーティヴィラ亀鶴ショートステイセンター事業報告書

【概況】

既存利用者の利用日数延長や要介護度の重度化、新規利用者数、定期利用は増えている。しかし、入院や死去、特養への長期入所に伴い、利用終了となるケースが多く、一定の利用者数確保が難しい状態であった。

1月にロングショート利用者1名のインフルエンザ罹患はあったが、他利用者への罹患は防ぐことが出来た。また利用予定者への状況報告、意向の確認を随時していくことで混乱なく受け入れは行えた。

今後も長期入所や死去等で利用終了となるケースはあると思われる。居宅介護支援事業所と連携を取りながら、利用者の受け入れ、利用が円滑に行えるようにしていきたい。

利用状況について

【利用延べ人数】

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 合計 |
|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|
| 要支援1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 | 0 | 3 |
| 要支援2 | 3 | 2 | 2 | 4 | 2 | 2 | 8 | 9 | 6 | 4 | 0 | 4 | 46 |
| 要介護1 | 21 | 29 | 20 | 35 | 39 | 40 | 28 | 19 | 15 | 17 | 10 | 15 | 288 |
| 要介護2 | 51 | 45 | 66 | 57 | 37 | 26 | 38 | 19 | 22 | 22 | 30 | 56 | 469 |
| 要介護3 | 330 | 342 | 333 | 306 | 348 | 308 | 339 | 324 | 291 | 261 | 242 | 253 | 3677 |
| 要介護4 | 107 | 99 | 77 | 83 | 81 | 84 | 110 | 116 | 126 | 134 | 125 | 109 | 1251 |
| 要介護5 | 63 | 71 | 63 | 97 | 85 | 84 | 90 | 88 | 121 | 134 | 125 | 126 | 1147 |
| 合計 | 575 | 588 | 561 | 582 | 592 | 544 | 613 | 575 | 581 | 575 | 532 | 563 | 6881 |

前年度と比較すると要介護3以上の利用者が増加している。

【稼働率】

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 合計 |
|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 延人数 | 575 | 588 | 561 | 582 | 592 | 544 | 613 | 575 | 581 | 575 | 532 | 563 | 6881 |
| 平均 | 19.1 | 18.9 | 18.7 | 18.7 | 19.1 | 18.1 | 19.7 | 19.1 | 18.7 | 18.5 | 19.0 | 18.1 | 18.8 |

29年度稼働率：94.26%

今年度は医療的に経過観察者が多く、受診や入院も多かった。入院空床時の対策として次点利用者の確保にも努めたが、稼働率は目標の95%までは届かなかった。医療体制の充実のため30年度は看護師の加配を計画している。

委員会活動について

①感染対策委員会

| | | | | | | | | | | | | |
|-----|------|------|------|------|------|------|-------|-------|-------|------|------|------|
| 開催日 | 4/12 | 5/10 | 6/21 | 7/14 | 8/16 | 9/19 | 10/25 | 11/13 | 12/19 | 1/15 | 2/21 | 3/26 |
| 人数 | 5 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 |

感染症は1月にロングショート利用者1名がインフルエンザA型を発症。他部署からのインフルエンザ発症はなかった。高齢者にとっては感染症が命に係わることもあるため、スタッフの健康状態の確認、異常があった場合は早期に対処するとともに、手洗いやうがい、消毒は継続していきたい。

季節によって流行する口腔ケア、インフルエンザ、ノロ等を感染症の研修として本委員会が随時行っている。また、感染対策マニュアルについては年1回の見直しを実施した。

②レクリエーション委員会

| | | | | | | | | | | | | |
|-----|------|------|------|------|------|------|-------|-------|-------|------|------|------|
| 開催日 | 4/30 | 5/30 | 6/30 | 7/30 | 8/30 | 9/25 | 10/30 | 11/27 | 12/28 | 1/31 | 2/28 | 3/30 |
| 人数 | 4 | 4 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 5 | 5 | 5 |

歌を歌うことを喜ばれる利用者が多いので、両ユニットの交流も兼ねて、今後も歌うレクを定期的に行って行きたい。おやつ作りは各担当者が買い物や準備を行い、工夫を凝らして行えた。事故や怪我なく、終えることが出来ている。

誕生日プレゼントは各ユニット、決められた予算の中で対応した。誕生日にお祝いをすることで、喜ばれていた。

③ 安全対策委員会

【年間報告件数】 事故報告：99件、ヒヤリハット：18件

28年度に続き内出血、転倒の報告が多く上がっている。同時に未然に防ぐことが出来た事故報告も28年度よりも多く上がっている。

夜間帯での事故を防ぐため、5時出勤の職員を配置している。早朝はゆとりを持って対応することが出来るようになってきている。その結果、夜間帯の事故報告件数は減少している。

利用者の私物がポケットに入っている状態で洗濯をする、爪切り介助中に傷つけてしまうなどの注意不足から発生した事故も数件報告されている。職員が意識することで改善できる部分は今後も定期的に確認する時間を作り、支援に当たるようにしていきたい。

④生活向上委員会

| | | | | | | | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|------|-----|-----|-----|
| 開催日 | 4/3 | 5/1 | 6/4 | 7/4 | 8/1 | 9/4 | 10/5 | 11/3 | 12/4 | 1/3 | 2/7 | 3/6 |
| 人数 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 |

各ユニット、看護師、生活相談員で利用者の状態を把握、ケア内容の検討をすることが出来ている。また、委員会で決定した事項は各ユニット会（1週間以内）、会議録の作成で全職員が確認できるようになっている。すぐに改善を要することは口頭や書面、毎日の申し送りで周知を行っている。

居室の環境整備や本人の状態に合わせた介助、状況に合わせたケア方法の変更は不十分な面が見られるのでよく検証が必要である。

今後も利用者が安心・安全に過ごせるように情報共有や「ハウ・レン・ソウ」を大切にしていきたい。

⑤拘束委員会

| | | | | | | | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|------|-----|-----|-----|
| 開催日 | 4/3 | 5/1 | 6/4 | 7/4 | 8/1 | 9/4 | 10/5 | 11/3 | 12/4 | 1/3 | 2/7 | 3/6 |
| 人数 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 |

身体拘束について、29年度は実施していない。（センサーコールは常時1台使用。その他はショート利用者で必要な方に使用している）。物理的（4本柵、ミトン型手袋等）な拘束はしていない。しかし「ちょっと待って」といった言葉も利用者の動きを制限する言葉の拘束にあたる。職員は拘束について理解した上で支援を行っていく。

その他

①環境整備

月ごとに項目を決め、分担表を作成して実施を行った。（8、11、2月は実施せず）枕の洗濯、乾燥は季節の変わり目（4、7、1月）に実施。

②ユニット会議

| | | | | | | | | | | | | | |
|---|-----|------|-----|-----|-----|-----|------|-------|------|-------|------|-----|-----|
| 亀 | 開催日 | 4/10 | 5/8 | 6/9 | 7/7 | 8/4 | 9/11 | 10/13 | 11/6 | 12/5 | 1/9 | 2/9 | 3/7 |
| | 人数 | 6 | 5 | 6 | 6 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 |
| 鶴 | 開催日 | 4/6 | 5/2 | 6/6 | 7/5 | 8/7 | 9/5 | 10/10 | 11/9 | 12/18 | 1/12 | 2/8 | 3/3 |
| | 人数 | 5 | 6 | 6 | 6 | 6 | 5 | 5 | 6 | 4 | 6 | 4 | 5 |

月1回開催し、各ユニット（主にロングショート）のケア内容の検討を行った。また生活向上委員会で決定した事項を周知している。夜勤や日勤で両ユニットの対応することが多いため、他ユニットの情報を把握できるようにしている。

ハーティヴィラ亀鶴デイサービスセンター事業報告

【概況】

利用者登録数はほぼ定員に達していたが、体調不良、入院等で当日の利用につながらなかった。また、冬場の利用者減が課題となった。総合事業との相乗効果はあらわれたが、介護への移行後に利用者を増やすことが出来なかった。

利用状況（人数・介護度別）

| 月 | 介護度別 | | | | | | | 実籍数 | 延べ数 |
|----|------|------|------|------|------|------|------|-----|-----|
| | 支援 1 | 支援 2 | 介護 1 | 介護 2 | 介護 3 | 介護 4 | 介護 5 | | |
| 4 | 3 | 10 | 17 | 16 | 13 | 6 | 2 | 67 | 641 |
| 5 | 3 | 9 | 19 | 15 | 13 | 6 | 2 | 67 | 730 |
| 6 | 5 | 9 | 20 | 15 | 13 | 3 | 2 | 67 | 732 |
| 7 | 3 | 9 | 24 | 13 | 13 | 4 | 2 | 68 | 711 |
| 8 | 3 | 9 | 25 | 16 | 13 | 4 | 2 | 72 | 746 |
| 9 | 4 | 9 | 26 | 16 | 14 | 3 | 3 | 75 | 789 |
| 10 | 3 | 9 | 24 | 20 | 13 | 3 | 3 | 75 | 758 |
| 11 | 1 | 8 | 24 | 21 | 12 | 3 | 2 | 71 | 772 |
| 12 | 2 | 10 | 21 | 24 | 11 | 3 | 3 | 74 | 712 |
| 1 | 2 | 10 | 21 | 22 | 9 | 4 | 3 | 71 | 685 |
| 2 | 2 | 9 | 22 | 23 | 9 | 4 | 2 | 71 | 663 |
| 3 | 2 | 9 | 22 | 24 | 8 | 5 | 2 | 72 | 738 |

延べ人数 8,704 人 1日平均 27.8人

総合事業（からくり教室）

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 延人数 |
|----------|---|---|---|---|---|---|----|----|----|---|---|---|-----|
| 1日 | 5 | 5 | 6 | 7 | 7 | 7 | 7 | 6 | 5 | 6 | 6 | 6 | 285 |
| 半日 利用 | 3 | 4 | 4 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 1 | 1 | 1 | 123 |

デイサービス職員会議

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|----------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 実施 日 | 27 | 25 | 22 | 28 | 24 | 28 | 26 | 23 | 21 | 25 | 22 | 24 |
| 参加 人数 | 10 | 9 | 12 | 10 | 9 | 9 | 11 | 13 | 11 | 12 | 10 | 10 |

・当月の利用状況・利用者処遇・来月の予定について周知・話し合いを行う。

その他

情報としてダイ通信を毎月1回発行した。

ハーティヴィラ亀鶴ヘルパーステーション事業報告

【概況】

昨年来訪問に伺っていた外部の利用者も入院となり、同一施設内の利用者も常時訪問介護が必要な方は少なくなっている。特定事業所の指定を受け職員のスキルアップや記録の内容の質の向上、研修の充実をさらに進めていきたい。

主要事業

利用者状況

| 要介護度 | 80～85 | 85～90 | 90～95 | 95～ | 合計 |
|------|-------|-------|-------|-----|----|
| 要支援1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 要支援2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 要介護1 | 1 | 2 | 1 | 0 | 4 |
| 要介護2 | 1 | 1 | 2 | 1 | 5 |
| 要介護3 | 1 | 1 | 0 | 2 | 4 |
| 要介護4 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 要介護5 | 0 | 0 | 1 | 2 | 3 |
| 合計 | 4 | 4 | 4 | 5 | 17 |

サービス提供時間

| サービス名 | 延回数 | サービス名 | 延回数 |
|----------|-----|---------------|-----|
| 身体介護1 | 8 | 身体1・同・Ⅱ | 565 |
| 訪問介護初回加算 | 7 | 身1生1・同・Ⅱ | 237 |
| 身体1生活1 | 13 | 身1生2・同・Ⅱ | 43 |
| 身体介護1・同 | 113 | 身体2・同・Ⅱ | 97 |
| 身体1生活2・同 | 11 | 身2生2・同・Ⅱ | 42 |
| 身体介護2・同 | 19 | 生活2・同・Ⅱ | 317 |
| 身体2生活2・同 | 9 | 訪問型サービスⅠ | 36 |
| 生活援助2・同 | 73 | 訪問型サービスⅡ・同一 | 46 |
| 生活援助2 | 6 | 訪問型サービスⅢ日割・同一 | 7 |
| 生活2・Ⅱ | 13 | 訪問型サービス初回加算 | 2 |

延合計 1,664 回提供

会議の開催

| | | | | | | | | | | | | |
|---|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|---|---|
| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
| 日 | 20 | 17 | 28 | 27 | 31 | 29 | 25 | 27 | 6 | 11 | 6 | 2 |

ハーティヴィラ亀鶴サービス付き高齢者向け住宅事業報告

【概況】

開設5年を過ぎ、近隣にも同一施設が建設され利用者の動向も把握しづらくなってきている。経費も上昇傾向にあり、利用料への転嫁も考えているが、入居への影響等慎重にならなくてはならない。

中間施設の位置づけで事業を行ってきたが、当施設の機能では対応できない利用者も多く過渡期を迎えている。

29年度は夫婦での入居をすすめ2室は夫婦でのご利用となっている。利用者の入居満足と運営の好循環ということを意識しながら30年度の事業を行っていききたい。

主要事業

- ・ 安否確認サービス
- ・ 健康確認サービス
- ・ 食事サービス
- ・ 会議の運営（月1回）
- ・ 研修の実施
- ・ 利用者アンケートの実施（年1回）
- ・ 利用定員 10室

利用者状況

| | | | |
|----|---------|-------|-----------|
| 区分 | 利用者延べ人数 | うち退室者 | 29年度新規利用者 |
| 人数 | 13名 | 2名 | 3名 |

要介護度別利用者数

| | | | | | | | | |
|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----|
| 区分 | 要支援 1 | 要支援 2 | 要介護 1 | 要介護 2 | 要介護 3 | 要介護 4 | 要介護 5 | 合計 |
| 利用 人数 | 0 | 1 | 1 | 2 | 8 | 0 | 1 | 13 |

会議の開催

| | | | | | | | | | | | | |
|---|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|---|---|
| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
| 日 | 20 | 17 | 28 | 27 | 31 | 29 | 25 | 27 | 6 | 11 | 6 | 2 |

ケアプランセンターゆたか事業報告

【概況】

平成29年は事業所内の事例検討、各機関での研修に参加する事でスキルアップにつなげる事ができた。今年度は実務研修実施研修の受け入れも行い、支援業務の再確認をする事ができている。ケアプラン件数に対し、6人体制30件の対応については目標まで達成はできていないが、徐々に利用件数も増えてきている。包括支援センターからの支援事業所の委託についても、件数のばらつきがみられており5件以上対応しているケアマネージャーもいる。利用者との関係も考慮し、ばらつきなく件数に携われるようにしていく。

事業内容

介護予防ケアプランの受託

認定調査の受託

ケアプランの作成

事業体制

主任ケアマネージャー4名、ケアマネージャー2名、計6名

平成29年度 利用者数

| | 新規利用 (介護) | 新規利用 (予防介 護) | 契約終了 (介護) | 契約終了 (予防介 護) | 要介護 利用請求 者数 | 予防介護 請求者数 |
|-----|--------------|--------------------|--------------|--------------------|-------------------|--------------|
| 4月 | 11名 | 2名 | 1名 | 1名 | 131名 | 18名 |
| 5月 | 2名 | 5名 | 5名 | 1名 | 135名 | 22名 |
| 6月 | 6名 | 1名 | 2名 | 0名 | 136名 | 21名 |
| 7月 | 2名 | 0名 | 6名 | 0名 | 136名 | 19名 |
| 8月 | 8名 | 2名 | 4名 | 0名 | 136名 | 21名 |
| 9月 | 5名 | 0名 | 1名 | 1名 | 140名 | 21名 |
| 10月 | 4名 | 0名 | 2名 | 0名 | 142名 | 19名 |
| 11月 | 5名 | 1名 | 3名 | 0名 | 140名 | 21名 |
| 12月 | 3名 | 1名 | 0名 | 0名 | 145名 | 20名 |
| 1月 | 1名 | 0名 | 0名 | 1名 | 144名 | 19名 |
| 2月 | 3名 | 0名 | 5名 | 0名 | 146名 | 18名 |
| 3月 | 4名 | 1名 | 3名 | 0名 | 147名 | 18名 |
| 合計 | 54名 | 13名 | 32名 | 4名 | 1678名 | 237名 |

・ ※入院中 サービス利用休止もあり、担当人数と 請求者数は異なる。

第5章 保育事業

【概況】

かねてから整備を行ってきた高松くりの木保育園が平成29年12月20日に建物の引き渡しを受け、施工業者および地域の方にお越しいただき、2月20日に落成式を行った。30年4月1日の開園時の職員も23名と予定通りの採用ができ、法人理念と保育方針に沿った地域からも支持される事業を行っていく。

平成29年度事業収支（一部未収含む）

1 収入の部

| 区 分 | 予 算 額 | 摘 要 |
|---------------------|--------------|-------|
| 高松市保育所等整備 事業費補助金 | 165,457,000円 | |
| 高松市社会福祉法人等 事業補助金 | 50,000,000円 | 30年度分 |
| 法人負担 | 296,916,000円 | |
| 計 | 512,373,000円 | |

2 支出の部

| 区 分 | 予 算 額 | 摘 要 |
|--------|--------------|-----|
| 工事費 | 320,382,000円 | |
| 設計監理費 | 16,092,000円 | |
| 土地取得費 | 135,000,000円 | |
| その他備品等 | 40,899,000円 | |
| 計 | 512,373,000円 | |